

「女子教育男性にも広げたい」

2025年4月に共学化し、校名を「名古屋葵大」に変えることを発表した名古屋女子大（名古屋瑞穂区）の越原もゆる学長が、本紙のインタビューに応じた。60年にわたって続けてきた女子大からの転換について、女性の社会進出が進む中で男女ともに家庭と仕事の両立が求められるとして「これまで女子大で培ってきた教育を男性にも広げたい」と述べた。

（聞き手・鈴木凜平）

名女大共学化で名古屋葵大へ

「共学化の経緯は。名古屋女子大の源流は、1915（大正4）年の名古屋女学校の創立にさかのぼる。社会に進出する女性はまだだったが「高い教養を身に纏った、よき家庭人であり、力強い職能人としての女性を育成する」ことを建学の精神に掲げた。男



名古屋女子大 校法人越原学園が運営する4年制の女子大。日本初の女性衆議院議員の1人である越原春子と和が1915年に共同で創立した名古屋女学校を源流に、64年開設。2015年に創立者の曾孫に当たる越原もゆる学長が就任した。健康科、医療科、家政、文の4学部があり、学生数は1653人。短期大学部は1950年に名古屋女学院短期大として開設され、現在は301人が通つ。

女共同参画社会に変わる中、社会で活躍する女性を輩出してきた大学の教育を男性にも広げようと、110周年を迎える2025年に共学化することを決めた。

越原学長に聞く

取ることができるので、大学に発展的に継承する。女子教育の伝統を変え、校名も変える。創立当初から社会で活躍する女性の育成を掲げ、創立者の思いを受け継いできた中、大学で女子教育を変えていくのかという思いもあり、数年間慎重に検討してきた。校名を変えることは私も卒業生として寂しさもあるが、「名古屋葵大」という名前には、名古屋市の旧東区葵町で創立した名古屋女学校から続く建学の精神を忘れず、原点に立ち返るという思いがある。また植物のアオイは上へ上へと伸び、色とりどりの花を付けることから、学生に多彩な能力を身に付けてもらいたいという願いもある。

「大学の将来像は。大学では地域貢献や産学官連携に力を入れてきた。宇宙飛行士野口聡一さんが宇宙でハーブを育てる実験に教員が関わった縁で、野口さんの講演会を開き、学生だけでなく一般の方も招いた。今後も実効性を高め、学部を横断した教育や研究で、社会で活躍できる人材を育てていきたい。」

「これまでの教育をどのように生かすか。創立者の越原和、春子は夫婦で協力して名古屋女学校を発展させた。その姿は現代社会に通じるものがある。家庭と仕事の両立は女性だけでなく男性にも求められており、これまで培ってきた学びは男性にも生きる。例えば生活環境学部」に名前を変える家政学部では、1級建築士などの資格を取得でき、これらの資格は男性にも役立つ。合わせて短期大学部の募集を停止する。2年間で職能を身に付ける短期大学部は社会に合っていないはずだが、18歳人口が減少し、受験生が短大より4年制大学を選ぶ志向が全国的に強まってきた。短期大学部で取得できる資格や免許は名古屋女子大でも



共学化の狙いなどについて話す名古屋女子大の越原学長＝名古屋市瑞穂区の同大で

少子化など背景進む共学化

女子大の共学化は全国で進んできた。県内には六つの女子大があるが、4月には桜花学園大と名古屋短期大（いずれも豊明市）が男子学生の受け入れを始め、男女共学になる。いずれも保育士養成に力を入れているが、男性保育士の増加や少子化といった社会情勢の変化が背景にあるという。

武庫川女子大教育研究所（兵庫）の調査によると、全

国の女子大は1998年の98校をピークに減少し、2023年時点では73校。一方で1948年以降に共学化した女子大は、56校に上る。県内の女子大では、95年に愛知淑徳大（長久手市）、2007年に中京女子大（大府市、現・至学館大）が共学になった。

文部科学省によると、22年の国内の大学入学者数は約63万人だったが、40～50年には年間50万人前後まで減ると推計している。